



昨年4月に新たな名称・組織でMICE産業推進のための取り組みをスタートさせた大阪観光局は、昨年12月5日(木)～6日(金)、展示・商談会と現地視察ツアーを中心に、セミナー、大阪MICE弁当試食会、テーマパーティなどで構成される「大阪MICEデスティネーション・ショーケース」を開催した。

276名の参加者(大学関係者や学協会関係者、企業関係者などMICEを主催する招待参加者95名/当日参加者15名/出展関係者163名/報道関係3名)を得た大阪のショーケースでは、MICEデスティネーションとしての大阪の魅力、新たなサービス、ユニークなコンテンツを知る絶好の機会であったが、何よりこれまで行政主導型から官民が一体となったオール大阪の取り組みに、「MICE

開催地」としての新しい大阪の可能性や勢い、「何かおもしろいことができそうだ!」という感触や期待を感じた。

大阪国際会議場で開催された「展示・商談会」には、MICE施設やホテル、ケータリング、飲食施設、観光施設、旅行会社、DMC、コンベンション企画運営会社をはじめとする魅力的なOSAKA-MICEづくりに取り組むMICE関連サービス事業者46社・団体が参加。オンラインでのアポイントシステムを活用し、事前に出展者との情報交換ができた商談会は1セッション15分。めいっばいの、アポイントを入れた。しかし当日、さすがに大阪と思わせる参加各社のプレゼンテーションスピーチを聞くと、ほかにも話を聞いてみたいと思う企業が出てくる。ところで、大阪と言えば「食」

と「エンタテイメント」。商談会後の大阪テーマパーティは、大阪を代表する名店からの特別料理が饗されるなど、大阪の魅力を少々欲張って体感できる嬉しい企画だった。翌日は、3班に分かれコングレコンベンションセンターやユニバーサル・スタジオ・ジャパン、また話題のアベノハルカスやベイエリア、梅田の空中庭園展望台等を巡る視察が行われた。

グローバルMICE強化都市・大阪のチャレンジは、多くのMICE主催者に高評価を得、実際に大阪で学会開催を予定しているある大学関係者は各社の「具体的な提案」や「欲しい情報を一挙に取得できたこと」を、またある学協会関係者は「官民を挙げたオール大阪体制」を評価した。